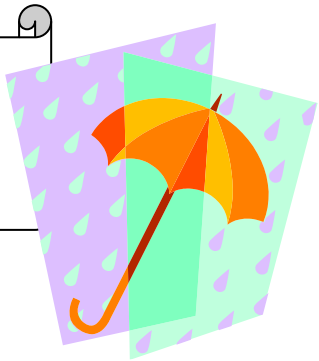
ゴ　ク　ロー　サン

5　9　6　3　ハート通信

VOL. 41　　竹原運輸株式会社

発行日　平成 23 年 5 月 10 日

★事務所スタッフからの一言



皆様、いつも竹原運輸をご愛顧いただきましてありがとうございます。日頃は大変お世話になりありがとうございます。

今年に入ってから様々な事故が起きて、安全についての意識が大きく変わろうとしています。福島原発事故、クレーン車の暴走事故、焼肉チェーン店食中毒事故・・・。

弊社では、

「安全第一を考える会社になる」

を１０年前から経営理念の柱として会社経営をしています。

この方針はやはり間違っていなかったと確信しています。どんなに利益が出ていようが、どんなに成長していようが、**安全を後回しにした経営はどこかでつまずく。**

急成長の影には必ず犠牲にするものがある。それが社員教育であったり、安全だったりすることが多い。他社に比べて成長は遅いかもしれないけれど、

「社員の成長に合わせた、確実な会社の成長を目指そう」

そんな思いから、竹原運輸は成り立っています。

竹原和行

◆事務所スタッフからのハートの一言◆

「100 円引っ越し」についてご存知でしょうか？

① 引っ越し先に「ＮＴＴフレッツ光」のネット回線をつなぐ

② 移動距離は 20ｋｍ以内

③ 2ｔショート車（荷台 3.3m）に収まる荷物

④ 作業員 1、２名で行える作業

の条件であれば 100 円で引っ越しが出来るという仕組みです。

通信会社の販売手数料が原資になるわけですが、それまでは通信回線の導入メリットを引っ越し作業完了後に紹介していたものを、順番を変えて顧客の導入メリットを引っ越しの集客に利用したもので、「なるほどなあ」と感心した次第です。法律的にはどうかと申しますと運輸局から「運送事業者として、きちんと規定の運賃・料金をもらった上で返金しているのでまったく問題ない」と言うことです。ですから一度規定の引っ越し料金を収受した後で顧客にキャッシュバックしているようです。人の関心を引く上では大変効果的で、衝撃的ですね。

発想を変えて物事を見る目を養いたいものです。

社長　竹原正和

《東日本大震災発生で思うこと》

東北、関東長野地区に大きな揺れが襲ってから 2 ヶ月余り、3 月 11 日過去に例を見ない大震災、津波は自然災害の恐ろしさをまざまざと見せつけました。（原発事故は人災でしょうか）

ＴＶに放映される街が津波に飲み込まれる光景は、「人は自然に対して何も出来ない全く無力」であると言うことがはっきりと分かりました。

当社でも危機管理マニュアルを作成し、緊急時の体制対応を備えていますが今回のような大規模な自然の災害が発生した場合はどうだったろうか、身が震える思いでおりました。

当社のトラックも 3 月 10 日発で 11 日に仙台に到着させる「荷」を積んで走行中に地震発生を知り、懸命に連絡を取り糸魚川からＵターンをさせるという間一髪の状態も発生しました。

（後で乗務員からの報告を聞くと 15ｔ積のトラックが大きく揺れて、とても恐かったとのことでした。）

当社でも地震が発生すると同時に部門長は、東北関東方面を走行中の全ての乗務員に対して運行ルートの変更を指示し、全ての荷物を異常なく、時間通り御届けすることが出来て、我々の責務が全う出来たことを喜んでおります。

その後、当社も緊急輸送物資の輸送で関東方面へ緊急用ポンプを 2 台輸送し、無事これも御届けすることが出来ました。東日本大震災の発生から 2 月余り、一刻も早い復興を願うともに、被災された方々に御見舞を申し上げると同時に亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りしたいと思います。

本当に私達は、被災者の方々から見れば幸福です。

橋本　勝

〈安全輸送〉

当社は、一度御取引をさせて頂いたお客様には信頼される企業であり続けることを目標として、信頼関係を最重視して長くお付き合い頂くよう懸命に努力を致しております。

安全運行、荷役作業中の事故防止にも積極的に取り組んでおります。なぜなら当社は、危険物の輸送、大切なお客様の商品の輸送、荷主企業様の会社での大切な商品を輸送させてもらっているからです。当社の乗務員が事故を発生させるとお客様に深刻な被害を与えてしまいます。お客様は、物流の品質に対して大変厳格な目を持ってきておられます。

実際に御取引させて頂いている大手の荷主様は、私共に製品の特性から集品、荷姿配送の注意点まで月1回物流会議に出席した時に御指導頂いております。私共は、お客様と顔を突き合わせて「生の声」を聞かせて頂くことで輸送の品質向上への意識が確実に高まって参ります。常にお客様と一体感を持って、問題の解決策を積極的に検討させて頂き、その中で学んだことは当社の安全輸送にも大きく繋がって来ております。

これからも乗務員の質の問題、車両の設備面でも出来る限り他社に負けないよう、努力しようという精神で全従業員が一丸となって頑張って参ります。

斎藤　洋一

爽やかな過ごしやすい季節となりましたが、皆様お元気でしょうか？

最近の我が家では、『ヒマワリッ！　いい加減にしなさい』という娘の怒鳴り声が朝晩家中に響き渡っています。というのもジィは娘と室内犬のシモンの二人と一匹で暮らしておりましたが、二ヶ月程前に娘がペットショップへ行った時、「私に飼われるためにこの子がいた。」「運命的な出会いや」などと訳のわからないことを言って連れて帰って来たミニチュアダックスのヒマワリが新しい家族となりました。真っ黒の垂れ目の生後4ヶ月で家に来たヒマさんは、とても好奇心が強く、やんちゃでやりたい放題で本当に手がかかります。

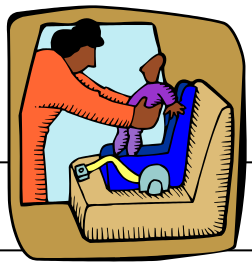
娘の洋服、鞄にスリッパなどその辺にあるものすべて噛んで遊んでダメにしてしまい、その都度、娘に思いっきり怒られています。娘が面倒を見るからという約束でしたが、親子間の約束ほど守らなくていいものはなく、今は全面的にジィが見ており、娘は主に叱る係りになっています。最初は仕方なしに面倒を見ておりましたが、ジィが帰ると喜んで飛んでくる姿は愛おしく思えてきて、シモンと遊ぶとヒマさんが、ヒマさんと遊ぶとシモンがヤキモチを焼き、ジィはペットにはモテモテです。何かの縁で家に来てくれたこの子達を愛情持って育ててあげたいと思うようになりました。平凡な毎日ですが、そういう毎日を過ごせることが本当に有難いことですし、日々感謝の気持ちを忘れずにいなければと思っております。

大橋哲夫

大型連休中は、各行楽地へお出掛けになったと思います。各地は、車が一杯で駐車するにも大変だった事と思います。

子供、高齢者の交通事故防止、自転車の安全な利用方法、チャイルドシートの正しい着用方法、自転車が歩道を通行する場合は、自転車から降りて押して歩かなければならないのにスピードを出して通行する自転車も見うけられます。十分注意を払って通行されるよう、自分から交通事故を一つでもなくすことを心掛けて下さい。危険を感じたら遠回りでもするだけの余裕をもった行動をして頂きたいと思います。

また、飲酒運転は犯罪ですから責任の重大性について十分認識し、飲酒運転を許さない環境づくりに努めて下さい。

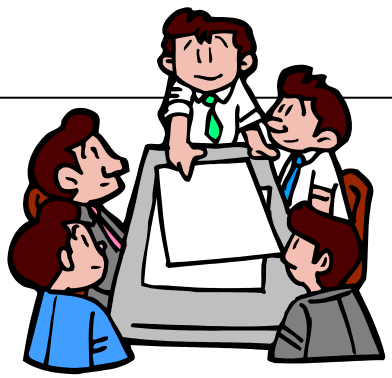


整備担当　吉川　文雄

弊社では月に一度（第４土曜日の１３：００～）安全衛生環境委員会という定例の会議を開催しております。委員長と副委員長、各部門から選出された乗務員と各部門長とで構成され総勢１８名で活動しております。選出された乗務員の任期は１年で乗務員の代表として会議に参加します。「安全第一」の基本方針に沿って様々な角度から意見や問題点を取り上げて議論する場です。本年度よりその中からさらに小委員会を発足させて安全第一に取り組んでおります。安全委員、環境委員、教育委員の３委員会にはそれぞれリーダーが選出されており定例会において活動報告や活動計画を発表し、書面で他委員に公表され記録されます。一見大変そうに感じるかもしれませんが、自分たちの考えや意見を議論できる素晴らしい時間です。

私は教育委員に属しております。先月は新入社員に３日間のカリキュラムを作成し研修しました。内容は教育委員で決めて実行いたしました。まだヨチヨチ歩きの小委員会ですが、いつの日か笑って話せる活動を。そして小委員会のさらに小委員会が発足し社員全員が何らかの委員に属し一人ひとりがお客様の為にできること、社会に貢献できる安全風土、会社の発展に繋がる行動力を身に付け考えられるよう努力していきたいです。

池上則和



いつも竹原運輸をご利用頂きありがとうございます。

この度の東日本大震災により被災された皆様に、心からお見舞い申し上げます。

ニュース等で様々な切り口から報道がなされ、被害や災害の影響の大きさにショックを受け、『自分なんかに出来る事なんて見当たらない。』漠然とした不安で頭がいっぱいになってしまいました。

しかし、テレビで被災者の方々の前向きな言葉や救助・支援活動をされている姿を観る度に、私は何も出来ないのではなくて、しないだけだと考えるようになりました。

普段から出来るはずだったのにやらなかった節電も、必要に駆られて今頃から力を入れるのはカッコ悪いのですが、役に立たないまでも復興の足を引っ張らない生活を考動したいと思います。

夏までには慣れて、暑い季節に適応出来る知恵も身に付けたいと思います。

辻川　伸吾

3 月 11 日の東日本大震災。皆さんの親族や友人、知人など大丈夫でしたか？

僕は、今回の大震災が起きた事によって色々考えさせられる事がありました。ある方に聞いた話なんですけど・・・・。

その方の友人が福島第一原発の作業員だそうで、地震が起きた後に友人に無事かどうか確認するために電話をかけたそうです。しかし、全く電話は繋がらず、物凄く心配しながら 2 週間程たった時、折り返しの電話があったそうです。友人の方は、地震後ずっと原発で作業をしていたため電話が出来なかったそうです。しかし、体調を崩して外に出てきた時に着信に気がついて連絡してきたとのことでした。

「大丈夫か？無事か？」と聞いた時に「何とか無事です。しかし原発は今、物凄く危険な状態です」と。

その方は、友人に言ったそうです。「とりあえず無事でよかった。もうそんな所で作業してないで今すぐに逃げろ。命あっての人生だろ？お前一人逃げたって今の状態は変わらないし、とにかく逃げた方がいい」と。

それに対して友人は、「確かに地震の後の状態はかなり酷いもので、テレビで放映されているよりずっと酷いよ、足はすくんだし身震いはしたし・・・・。でも俺がここで作業を止めて逃げ出したらなくなっちゃう！大好きな福島県が家族が友人が・・・みんななくなっちゃう。だから俺は逃げないよ。だってこれが俺の使命だから！」と言ったそうです。

「使命＝命を使う」命を使うと書いて使命。この話を聞いた時に思いました。自分のためじゃなく何かのために心を動かして行動するのは、ものすごくかっこいい事だなって、自分の人生、何かのために生きて、そして何かのために仕事して。この「何のために」という心の芯がある人は、きっとぶれないし強い人間になれるのではないかと思います。

谷口　学

5月に入り日中と夜の気温の差があり、体調管理等が難しい季節になりました。

今回のゴールデンウィーク中うちの子供は、体調を崩しずっと寝込んでしまい、連休中熱が下がらなかったので救急病院に連れて行き、インフルエンザの疑いがあったので検査をしました。幸いインフルエンザではなかったので良かったですが、知り合いの二家族は、インフルエンザに罹ってしまい散々だったらしいです。

実際、病院にいた時も入れ替わり立ち替わり患者さんが診察を受けに来ていました。全員がインフルエンザかどうかは分かりませんが、季節の変わり目なので体調管理が難しいなと実感しました。

これから梅雨の時期ですが風邪や特に食中毒に注意して体調管理に気をつけて頂きたいと思います。

植田　泰樹

皆様いかがお過ごしでしょうか。我が家では今年の1月の下旬に長男（現在大学4年生）が神奈川から戻って来ました。こちらから高速バスで週1回大学へ通っております。

長男が待望の2台目のテレビを持って帰って来ました。しかし残念なことに誰も興味を示さず、テレビは片づけられたままとなっており、今まで通り1台のテレビを家族4人でチャンネル争い（大抵は次男がリモコンを離しませんが・・）をしながら見ております。

寝る時まで一つの小さな部屋で大きな体をした4人＋一匹（長男189㎝、次男184㎝、主人176㎝、私165㎝、ミニチュアダックス、私は小さいのですが・・・）がいる訳ですから、自然と節電しているのではないかなと思っております。これが各部屋で電気をつけ、テレビをつけ、夏はエアコンをつけたら電気料金はいくらになることやら・・・。

全国で節電の取組を展開している時期ですが、同じ部屋で家族と過ごす時間を増やすことで、少しですが自然と節電を出来るのではないかと思っております。もし皆様のご家庭で別々の部屋のテレビを見ている事があれば、この機会に見たいテレビをぐっと我慢してチャレンジしてみて下さい。

吉川　佳代

次回お楽しみに・・・